



コネコネプリン!

























ニヤッ

アッ

「お上手です
そのまま主さまの思っただけ
動いてください」

はぁ

あゝ

ふっ

んっ

アッ

はっ

あゝ

あゝ







♡はあ♡
♡あ♡
♡あ♡
♡あ♡
♡あ♡

はあ
あ
あ

はあ
あ
あ

はあ



「主さま
おさまりましたか？」

はあ

ふう

おい























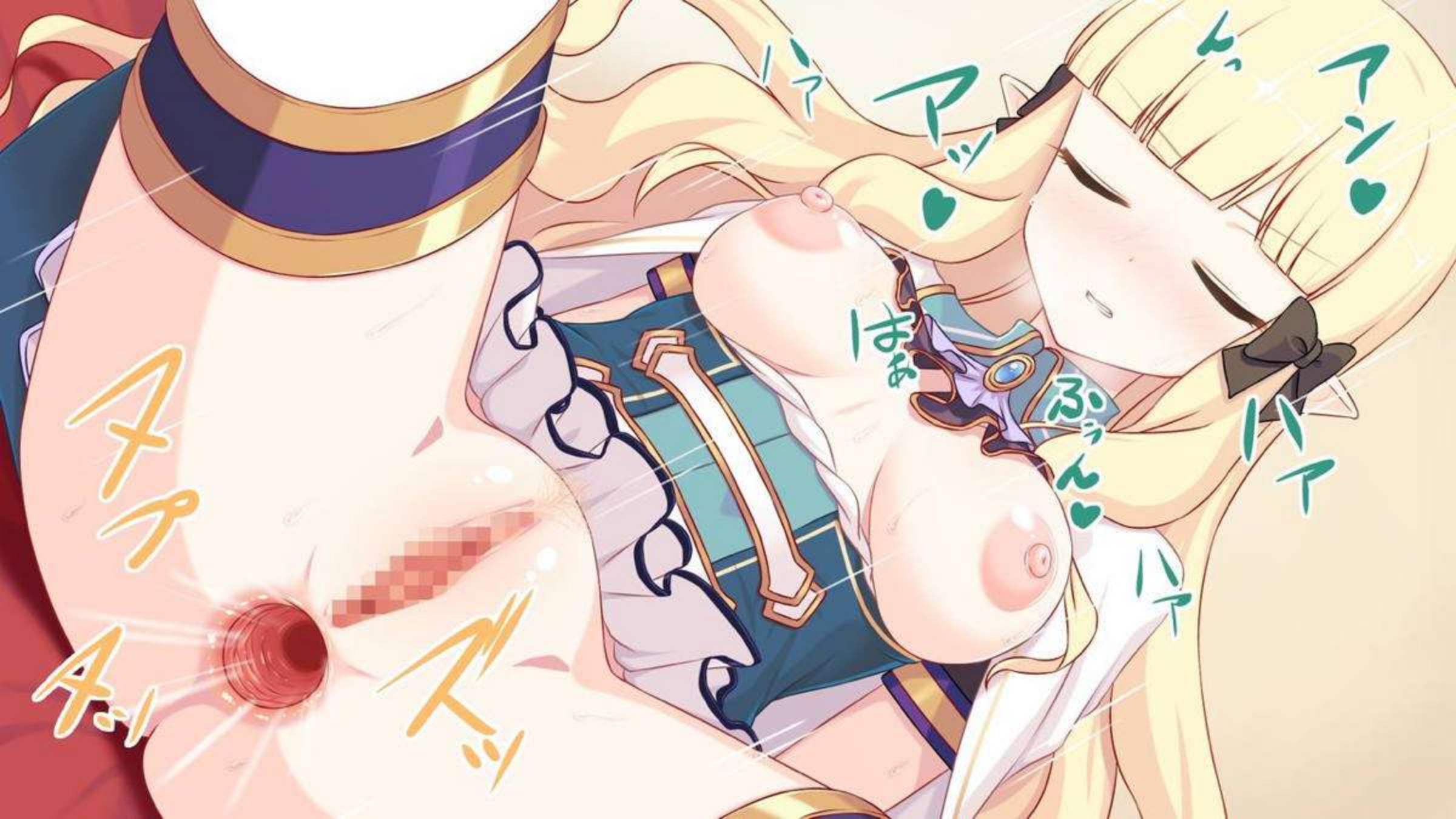
















あああ
あん

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ

あ

あ





「それにしてもあんと
こんなことになるなんてね
……馬鹿ね、嫌じゃないわよ
これからもよろしくね♡」

トロロ















しん



しん



しん



しん



しん



しん



しん

しん

しん

しん

しん

しん





ああ

ああ

ああ

ああ

ああ

トゲ

ビュ





私(わたし)が
たらあんなに
乱(みだ)れてしま
うて……
はしたない女
だとかしら
思(おも)われ
てません
かしら

K
O
K
O













ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡





ああ

あ

あ

あん

あ

あ

あ



「はあはあ……
激しすぎよもう」

「え？もう」回したいの？
だだめよ
バイトに遅刻しちゃうわ」

コポ

トロオ

「……その
帰ってからならいいわよ♡」



























「前も後ろも
貴方様のものにされてしまいましたわ
これから未永くよろしくお願いしますね
クスクス」

FUCK



















あーっ♡
んっ♡
あーっ♡

あーっ♡

んっ♡

アッ!!
っ!!

っ!!
っ!!





あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

おーおーおー

おーおーおー

あーあーあー

あーあーあー





はい

「ここ、これが
大人の付き合いなんですね
すごいです……♡」

トコ









「どうですか？
たまにチラチラ胸を見てたから
好きなのかなーって」

「あっ、いいんですよ！
男の子ですものね」

「それにあなたになら
そういう風に見られても
嫌じゃないですかから♡」

むにゅ♡



「うまく出来てますかね？」

「漏れそう、ですか？
大丈夫ですから
遠慮せず出して
くださいね♡」







「うわあ、
すごく飛びましたよ
ヤバイですね☆」

「それじゃ綺麗にしてあげますね♡」

れろ

れろ

「ご安心くださいませませ
それはご病気ではありません
わたくしが鎮めて差し上げますね」

「どうぞ遠慮せず
わたくしの中に
いらっしゃってください」



「お上手です
そのまま主さまの思っようで
動いてください」

はぁ

あゝ

ふっ

んっ

はっ

あゝ

あゝ

ハッ

ハッ





「主さま
おさまりましたか？」

はあ

ふう

ポッ

「初めては痛いものだと
聞いておりましたが
わたくしたちの相性は
とても良いようですね♡」

「あ、いえ
なんでもございません
……ふふ♡」

ドゥ
ドゥ

「こ、こういうこと
するってことはさ
あんたあたしのこと
す……好き……なのよね？」

「そ、そうよね！
さつきも聞いたわよね！
いや、それならいいのよ」







ラブにゃあ♡
あ♡
あ♡

アハハハ

アハハ

アハハ

アハハ

「あんたどんだけ
出すのよ」

「ま、まあ
あたしも気持ちよ……」

「な、なんでもないわよ！
ぶっ殺すぞ……♡」



「は、はあ!!
セツ……したいですって!!
いいい、いきなり何言ってるのよ!」

「好きな人とはセックスするって
本に書いてあった?」

(しまった
ああいうちよつと大人向けの要素が入ってる本は
子供たちの手が届かないところの隠してあるけど
こいつ子供じゃないのよね
ていうかあたしとしたいって言うことは
っ、つまりそういうことよね?)

「下の方に穴があるでしょ?
そうそこにあんたの
お、おち……を入れるの」

くぱあ

(なにやってるの
あたしー!)





「これじゃほんとのママになっちゃうわね」

「それにしてもあんたとこんなことになるなんてね……馬鹿ね、嫌じゃないわよこれからもよろしくね♡」

トロロ





「あ、あなたさま……
いけません
ニジニジ(う)いうことは
結婚してからでない……」

「でも、どうしても
というのなら
私は……
ああっ！ 恥ずかしいですわ♡」





私(わたし)が
乱(らん)れたら
あんなに
思(おも)わ
れ(れ)ない
で(で)ま
せ(せ)ん
か(か)し
ら(ら)し
ま(ま)す
か(か)し
ら(ら)し
ま(ま)す

K
O
K
O



「その……
そ、それをそのままにしてちゃ
バイトなんてできないでしょ」

「え？
私を見てたら
大きくなっちゃったの？」

「し、仕方ないわね
弟子の面倒を見るのは
師匠の務めなものね」





ぴんぴん

ぴんぴん

あゝ

んっ

んっ

あゝ

あゝ

んっ



ジュン

ジュン

あ
あん

あ
あ

「はあはあ……
激しすぎよもう」

「え？もう」回したいの？
だだめよ
バイトに遅刻しちゃうわ」

ト
の
オ
コ
ポ

「……その
帰ってからならいいわよ♡」

「うん
どうしたら泣き止んでくれるんだ？」

オキヤル

オキヤル

「umm
きつ貴様！
まさかおっぱいが欲しいのか？
でもこれで泣き止んでくれるなら」





「ふふふれでいいのかな」

「あつ♡
貴様つ変な吸い方するなあ
なんか変な気分になるだろ」

ふふふ♡

ん♡

チュル

ちゅらう

シチュ



んはあ

あ

あ

ト
ン
ン

ち
ん
ん

「……寝ちゃってる」

「はあ、ひどい目にあつた
手もベトベトだし
……でも貴様となら♡」

すやあ



「きやあつー！
貴方様いきなりどうしたのです？」

「以前私が子供を欲しがってたから
調べてきた？」

「そうなのですが
それは錬金術で……
ああつー！いけませんわ！」





ん♡

ふっ

あっ♡

♡

ほっ

あん♡

ん

グッ

グッ

ン

ン

ン

ン



「クスクス」
予定とはだいぶ違います
貴方様と一つに♡

「責任……
取ってくださいませよね？
クスクス」

くぐぐ

マクマ





「じれったくなくなって
思わず押し倒してしまっただが……」

「何じゃお主
こういう方が好みなのか？」



あ♡

ア♡

は♡

ん♡

あ♡

ハ♡

グ
ク
ア
ア



「わらわをここまです
乱れさせるとは……
さすが眷属じやな」

「それにこの身体に
溢れんばかりの魔力！
このまま続けられれば
完全に力を取り戻せるやも
しれぬな♡」

グ
グ

ゴ
ゴ



「大人の付き合い方を
勉強してきた、ですか？
ふふん、やっとわかってくれたんですね」

「うてなんですかこれはー！！
やっぱりあなたには
へんたいふしんじやさんです！」





(私どうしちゃったんだろう
最初は痛かったのに
今はなんだかお腹が熱い……♡)

あぁ♡
はぁ
んっ♡
あぁ♡
あぁ♡

アッ
アッ

アッ
アッ



あ

は

あ

あ

あ

あ

あ

あ

は

は



はい

「ここ、これが大人の付き合いなんですね、すごいです……♡」

トコ





















































































(胸でしてるだけなのに
あそこが熱くなって……)

(だ、ダメです
漏れちゃいます)

ア
ア
ア
ア

「そんなにまじまじと
見ないで下さいませ」

「体が熱くなって
……あぁっ！」

ア
シ
ョ
オ
オ
オ





「あれ、止まらな……
こっちは見んなあ！」

シタァァァァ



「ほらわかる？
女性はそこから
おしっこが出るのよ」

ミッ
オオオオ

「あっ!!
お、お待ちください
今は駄目ですわ!」

「ノイレを探すのに迷ってしまったって
実はさっきから我慢して……
あああっ!」

アッショオオオ



(手伝ってくれたお礼に
お願い聞いてあげるので
気軽に言っちゃったけど
まさかこんなことを
頼んでくるなんて)





「そんなに見つめられては
恥ずかしいですわ」

グシャッ



「し、仕方ないのう
眷属の頼みじゃからな
特別じゃぞ」

ジュウウウウ

「は、放してください！
私はちゃんとトイレでっ！
それにこんな
子供にするみたいなのが好」

「あああ出ちやいました……」





























♡ほあ ああ ああ









あ
あ
あ
あ
ん

キラキラ
キラキラ
キラキラ





あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡





ああ

あ

あ

ん

あ

あ



あ



















「うまく出来てますかね？」

「漏れそう、ですか？
大丈夫ですから
遠慮せず出して
くださいね♡」





あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ

あ
あ

「お上手です
そのまま主さまの思ひように
動いてください」

はぁ

あゝ

ふっ

んっ

はっ

あゝ

あゝ

ハッ

ハッ







あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

あっ♡

パン

パン

パン





あ
あ
あ
あ
ん

キラキラ
キラキラ
キラキラ



あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

あはは
♡

レ
レ
レ

レ
レ
レ

レ
レ
レ



あ♡

あ

あ♡

あ

あ♡

あ♡

あ

あ

あ

あ



ピン

ピン

あ

ん

ん

あ

ん

ん



あ
あ
あ

あ
あ

あ

あ
ん

ムムム

ムムム

ムム



「ふふふれでいいのかな」

「あつ♡
貴様つ変な吸い方するなあ
なんか変な気分になるだろ」

ふふふ♡

ん♡

チュル

ちゅらう

シチュ













あーあ

あーあ

あーあ

んっ

あーあ

あーあ

アッ!

アッ!













































「あ、あれ？
急にお腹が……」

「何かへんなものでも
食べましたっけ」

グ
ッ

グ
ッ



「あああああつー！
すみませんすみません」

ムニムニ

ムムム

「あ、あれ？
急にお腹が……」

「何かへんなものでも
食べましたっけ」

グ
ッ

グ
ッ
グ





「あああああつー！
すみませんすみません」



「どうか嫌いなならないで
くださいまし」

「主さまの♡要望には
すべてお応えしたいのですが
さすがに恥ずかしゆうございます」

ア
ッ

ア
ッ
ア
ッ
ア
ッ





「どうか嫌いだならないで
くださいまし」



(なんか急にお腹が……)

ブウウウ

ブッ



「こっち見んじやないわよ!
見たら殺すぞ!」

ムヒッ
ムヒッ

ミチッ



(なんか急にお腹が……)

ブウウウ

ブッ



「こっち見んじやないわよ!
見たら殺すぞ!」

ビキ
ブ
ブ
ブ



「好奇心旺盛なものも
良いんだか悪いんだか」

「あだし以外にこんなこと
頼んじやだめだからね」

ブッ

グワ
グワ



「あーもうめちやくちや恥ずかしい！」

ムニユ

ブニユ

ニキッ

「好奇心旺盛なものも
良いんだか悪いんだか」

「あだし以外にこんなこと
頼んじやだめだからね」

ブッ

グワ
グワ





「あーもう
めちやくちや恥ずかしい！」

ビバ
ビバ
アピッ

アピッ

アピッ

「あなたさまがお望みでしたら
恥ずかしいですがけれど
応えて見せますわ」

「はっ……くっ!!
で、でますわあ」



あああああ
私こんな恥ずかしい姿を
見られてしまってますわ



「あなたさまがお望みでしたら
恥ずかしいですがけれど
応えて見せますわ」

「はっ……くっ!!
で、でますわあ」



（いきなりうんちするとこが
見たいなんて言うから混乱して
仕事として依頼するならいいわよ
なんて言っちゃったけど……）





(こんな恥ずかしいの
割に合わないわよお!)

ニヤ
ニヤ

（いきなりうんちするとこが
見たいなんて言うから混乱して
仕事として依頼するならいいわよ
なんて言っちゃったけど……）



ブ
ウ
ウ
ウ

ウ
ウ



(こんな恥ずかしいの
割に合わないわよお!)

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ツ
ツ
ツ



「貴方様
少しお待ちくださいね」



「クスクス
私の特製チョコレートですわ
遠慮せずお召し上がりになって♡」



「貴方様
少しお待ちくださいね」



「クスクス
私の特製チヨコレートですわ
遠慮せずお召し上がりになって♡」

クスクス
クスクス
クスクス
クスクス

「な、何!!
そんなものがないと申すのか」

「ぐむむむ……わかった!
望みの褒美を与えるのも
主の務め
とぐと見るがよい」

グ
グ
グ
グ
グ

「どうじゃ満足しておるか？」

「おらわのこのような姿お主にしか見せぬのじゃからな」



「な、何!!
そんなものがないと申すのか」

「ぐむむむ……わかった!
望みの褒美を与えるのも
主の務め
とぐと見るがよい」





「トイレにいかせてみてください！
ほんとにもう我慢が……」

ピ
ン
ピ
ン
ピ
ン



「あゝあゝあつ！
見ないでくださいー！」

「我慢出来たのにあなたが……
へんたいへんたい
へんたいあゝあゝあゝい！」

ムムム
ムムム



「トイレにいかせてください！
ほんとにもう我慢が……」

アッ
アッ

アッ

「あゝあゝあつ！
見ないでくださいー！」

「我慢出来たのにあなたが……
へんたいへんたい
へんたいあゝあゝあゝい！」











































































































































「うまく出来てますかね？」

「漏れそう、ですか？
大丈夫ですから
遠慮せず出して
くださいね♡」

♡ニムニム♡

ドロドロ

キュン

キュン

♡ニムニム♡





「さっばり曲芸したわ☆」

「この喉にからみつつかんじ
嫌いじゃないかもです☆」













































































